

人権週間になんて、県教育委員会が小・中・高校生を対象に開いた「人権の主張」弁論大会（十二月七八日）で、市立大湊小学校六年生の飯田康乃さんが、応募総数二百十五人の中から優秀賞十三人の中の一人に選ばれました。

内容は、学校での「同和合宿」で学んだことをまとめたもので、多くの聴集の集まった高知会館で力強く意見発表を行いました。その発表論文を紹介します。

同和合宿で学んだこと

大湊小6年 飯田 康乃



飯田 康乃さん

私たちの学校では、毎年同和合宿を、香北青少年の家で行なっています。今年の夏も、「友達を大切にする」という目的で行いました。

第一日にレクリエーションなどを行い、第二日には、「炎をうけつぐ子供たち」の映画を見ました。部落差別を、ほんのささいなこととか考えていない友達に、ひろみさんという女の子が、部落出身を宣言することによって部落

差別の重大さを教えるという映画です。この映画を見て、私は、差別は、ぜったいあつてはならないもの、またぜったい許してはならないものだと思いました。

差別されながら、その人の一生が終わるということは、その人にとって、とてもつらく苦しいことだと思っています。

ところで私たちの学校や地域では、差別はないかという、いろいろな差別があると思います。私の学校には、体の不自由な友達がいいます。その友達は、本当は、とてもつらい思いをしていると思いますが、ふだんは、みんなといっしょに仲良く遊んだりして学校生活をしていきます。しかし、私たちは、体の不自由な人の立場になつて考えているでしょうか。「かわ

いそうだから、仲良くしてやる」というような考えは、ありはしないでしょうか。そのような考え方は、まちがいだと思います。「かわいそうだから遊んでやる」このような考え方は、人を見下した考え方だと思えます。「体に障害があるから」「部落の人だから」という理由だけで人を差別するのは、よくないと思います。

人はだれもが自由に生きる権利をもっていると思います。生まれながらにしてもっている権利です。私たちは、その人の権利を、おかしてはいないでしょうか。友達をのけ者にしてはいないでしょうか。私の日々の生活をふり返つてみると、まだまだ差別をしているようです。これは、小さな差別かもしれません。この小さな差別が大きく広まり、友達との仲や家庭をこわし、社会を悪くしていくことでしよう。人間の命までもうばつてしまふかもしれないと思うと、おそろしくなります。

さて、「わが身をつねって人の痛さを知れ」ということがありますが、私たちは知らず知らずのうちに人を差別したりきずつたりしてはいないでしょうか。でも、人から差別されてはじめてそのつらさがわかるのです。

私たちはいつも人の立場になつて考えることができる人間になら

なくては、いけないと思います。

第二日目の同和合宿の時のお話の中に、郵便局でのおばあちゃんの話がありました。年金かなにかをひきにきたけれど、字の読み書きができなくて近くにいた人に、たのんで書いてもらつた話でした。そのおばあちゃん、同和地区に生まれ、小さい時は、家がますます学校へもあまり行くことのできなかったおばあちゃんです。同じようにこの世に生まれ、等しく教育の受けられなかったこのおばあちゃんのことを考えてみると、今までの七十年間ぐらいの生活はつらくて苦しいものだつたのでしよう。こんなつらい思いをしている人たちが多くいると思います。私たちはこのようなことを二度とくり返さないためにも、部落差別について学習していきます。

私たちの学校では週二回児童館で学習会をしています。ここでは、部落の歴史や部落解放のことについて学習しています。

これからの私たちは、学力を十分身につけ自分の希望する学校に入學したり就職したりすることによって、自分の生活を豊かなものにし、そして、社会のためにもつくし、だから差別を許さない人間にならなくてはいけないと思います。



ご家庭で話し合つて答えてください。答えは、この広報に出ています。

- もんだい・今から二千年百年前、〇〇文化が栄えた田村遺跡群は土佐人のルーツと言えます。
- しめきり・2月15日
- おくり先・〒783 南門市大湊甲二三〇一 南門市役所内広報委員会親子クイズ係
- 答えのハガキには必ず、住所部落名、氏名・年齢・職業を書いてください。
- 賞品・特賞千円〽三人、残念賞（記念品）〽五人

第134回正解者発表（敬称略）

（応募総数42通）

- こたえ・①政会議
- 特賞・千円〽三人
- 吉川智（黒潮）
- 仙頭重代（東崎）
- 高木亀井（浜田田）
- 残念賞・記念品〽五人
- 山本富衛（久松）池内健一郎（栄崎）
- 門田玲子（岡豊町）西内梅子（奈路）松岡数枝（稲生）